

令和元年度第2回史跡めぐり

「忍城・郷土博物館、さきたま古墳群」

10月1日実施

1. 「古代蓮の里 田んぼアート」



区役所横から総勢45名で埼玉県行田市を目指して出発。台風18号の心配をしていますが、良い天気になり暑いくらいでした

途中、首都高の事故で渋滞にあったため、蓮田SAでは短めの休憩とし、「古代蓮の里」には、ほとんど時間通りに到着。

田んぼアートを見るために展望台に登るには、11人乗りのエレベーターが1台のため4班に別れ展望台に

ラグビーのワールドカップで盛り上がっている日本代表のリーチマイケル、姫野和樹、田中史郎選手の姿と元号の「令和」が眼下に広がっていました。

田植えボランティアなどを募集し田植えから刈入れまで体験するそうです。

蓮のほうは、残念ながら、この時期のためもう枯れていました。

2. 「八幡山古墳」



石室内

若小玉古墳群の中心となる古墳で、7 世紀前半に作られた直径約 80m の円墳と推定。

昭和 9 年の小針沼の干拓事業で封土を使用したため石室が現れました。

石室は前・中・後の 3 室からなる全長 6.7 m、高さ 3.1 m の巨大さで、関東の石舞台と呼ばれています。

使用されている石は、榛名山麓の角閃閃安山岩、荒川上流の緑泥片岩、比企丘陵地域の砂質凝灰岩が使用されています。

昭和 52 年から 54 年に発掘調査が行われ、埋葬品には漆塗木棺や仏具の銅鉢などが出ており埋葬者はかなりの権力者と推定されています。

3. 昼食「渡ら瀬」



昼食は「渡ら瀬」にて浮島御膳を堪能。

4. 「忍城・郷土博物館」



忍城は、15 世紀後半に地元の豪族であった「成田正等」（なりたしょうとう）が築城し、「成田氏長」（なりたうじなが）の代まで4代にわたり成田氏が城主として統治してきました。

「忍城」が造られた場所は、小さな川が集合した大きな沼地でした。沼を埋め立てず独立した島を曲輪（くるわ）として、橋を渡す形で城を築いた湿地帯を利用した平城でした。

「石田三成」の水攻めに遭い城下の大半が水没したにもかかわらず、城だけは沈まなかった逸話から「浮き城」という別名も付けられた。

郷土博物館には、中世の行田の様子や江戸時代の忍城と城下町が再現され、近世の「足袋の町」としての資料も展示されていました。

4. 「さきたま古墳群」



丸墓山古墳



稲荷山古墳



古墳に続く石田堤

丸墓山古墳は、直径 10.5 m、高さ 18.9m 日本最大級の円墳として有名です。墳丘の高さは埼玉古墳群の中で最高で頂上に立つと、隣に稲荷山古墳、その向こうに將軍山古墳が見えます。そして北西の方角には、行田の市街地が望め忍城も見えました。下から見上げても、上に上ってもその大きさ、高さが実感されます。また、この高さから石田三成の本陣になっていました。

稲荷山古墳は、5 世紀後半に造られた前方後円墳（ぜんぼうこうえんふん）で、埼玉古墳群（さきたまこふんぐん）の中で最初に出現した古墳です。以前、古墳の上に小さな稲荷社があったことから、稲荷山と呼ばれるようになりました。

1968 年（昭 43）年に稲荷山古墳の後円部を発掘調査したところ、頂上から 2 基の主体部（人を埋葬した施設）が発見されました。ここからは、表面に 57・裏面に 58 の文字が刻（きざ）まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてつけん）や甲冑・馬具などの副葬品が出土しました。